令和4年1月31日
農推第1280－10号

病害虫発生･防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

特に注意！（2月）

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

・今後の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。
・伐採後すぐに処分できない枝や幹、伐採後の切り株については、ネットやビニルシート等で２重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

なす（施設栽培）

アザミウマ類

・苗からの持ち込みによる発生に注意しましょう。
・発生が見られたら、**アファーム乳剤**、**モベントフロアブル**、**ファインセーブフロアブル**、**ディアナＳＣ**などを散布しましょう。
・育苗期には、**モベントフロアブル**、**アベイル粒剤**など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用しましょう。
・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。
・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。

たまねぎ

べと病

・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として２～３月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
・**ジマンダイセン水和剤**、**ペンコゼブ水和剤**、**ダコニール１０００**、**ランマンフロアブル**などを予防的に散布しましょう。

ミナミキイロアザミウマ成虫※

たまねぎべと病（苗における発病状況）＊

次回の情報は2月下旬にお知らせします。
◎「防除指針」http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html

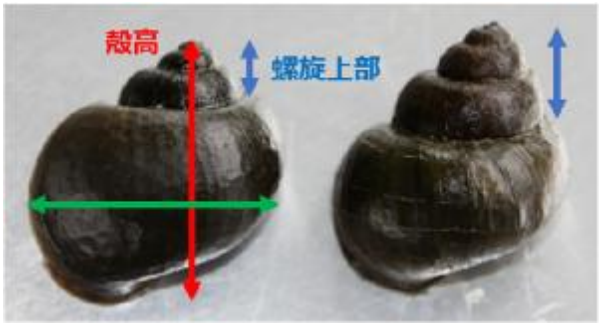
※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

水稲（越冬対策）

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

ジャンボタニシ
（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ

マルタニシ

ヒメタニシ

注）当該項目「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

◆成貝の殻高は２～７㎝程度。
◆**他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。**
◆主に田植え直後（約２０日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
◆**耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。**
◆本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

果樹

ぶどう（加温栽培）

灰色かび病

灰色かび病の症状

特徴

◆多湿条件で発生が多くなる。
◆胞子（分生胞子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
◆第１回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
◆開花直前または落花直後に**ゲッター水和剤**、**スイッチ顆粒水和剤**、**ネクスターフロアブル**などを散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

うどん状フラス

中華麺状フラス

防除のポイント

◆被害が大きい樹は伐採し、破砕や焼却することが望ましい。
◆**伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する**。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で２重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で２重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

伐採後の切株について

処分に伴う運搬について

◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、**処分のための運搬であっても市町村の指示に従う**こと。
◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの**分散防止措置を実施の上**、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第１６条の２により、**野焼きは原則として禁止**されている。
一方で施行令第１４条第４項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

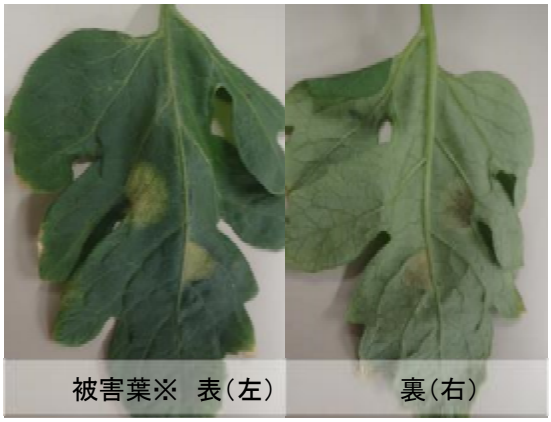
●令和３年５月１２日発表　防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyojyouhou/R0305kubiaka.pdf
●技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

トマト･ミニトマト（施設栽培）

すすかび病


被害葉※　表（左）　裏（右）

特徴

◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

◆発生を認めたら、**トリフミン水和剤**、**ファンタジスタ顆粒水和剤**、**アフェットフロアブル**などを散布する。

灰色かび病

被害葉　被害果

特徴

◆施設栽培で発生が多い。２０℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

◆発生を認めたら、**ロブラール水和剤**や**ファンタジスタ顆粒水和剤**などを散布する。

きゅうり（施設栽培）

黄化えそ病

キュウリ黄化えそ病被害葉

特徴

◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス（MYSV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリなどに感染する。
◆MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
◆MYSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

防除のポイント

◆MYSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

退緑黄化病

キュウリ退緑黄化病被害葉※

特徴

◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

防除のポイント

◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
◆雑草はコナジラミ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

なす（施設栽培）

アザミウマ類

ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

◆発生が見られたら、**アファーム乳剤**、**モベントフロアブル**、**ファインセーブフロアブル**、**ディアナＳＣ**などを散布しましょう。
◆育苗期には、**モベントフロアブル**、**アベイル粒剤**など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用する。
◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

あぶらな科野菜 （キャベツ、はくさい等）

菌核病

キャベツでの発病

特徴

◆暖冬時に発生が多い。

防除のポイント

◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
◆発生が予想される場合は、結球開始期から**ロブラール水和剤（キャベツ、はくさい）**、**セイビアーフロアブル２０（キャベツ）**などを予防的に散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

たまねぎ

べと病

べと病 （苗における発病状況） ＊

特徴

◆苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として２～３月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

防除のポイント

◆**ジマンダイセン水和剤**、**ペンコゼブ水和剤**、**ダコニール１０００**、**ランマンフロアブル**などを予防的に散布する。
◆越年罹病株は早めに除去する。

白色疫病

白色疫病発病株

特徴

◆２～３月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、**ランマンフロアブル**、**ジマンダイセン水和剤**を散布する。
◆発生を認めたら、**ザンプロDMフロアブル**、**プロポーズ顆粒水和剤**、**リドミルゴールドMZ**などを散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）
●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。